

三菱エンジニアリングプラスチックス株式会社の株式 25%の譲渡完了および  
当社グループにおけるエンジニアリングプラスチックス事業強化について

三菱ケミカルグループ<sup>※1</sup>（以下「当社グループ」）は、[2022年2月8日付のお知らせ](#)のとおり、三菱エンジニアリングプラスチックス株式会社（以下「MEP」）の株式 25%を三菱ガス化学株式会社へ2023年4月3日付で譲渡したことをお知らせします。併せて、MEPが展開していた高付加価値ポリカーボネート樹脂「XANTAR<sup>TM</sup>（ザンター<sup>TM</sup>）」およびポリブチレンテレフタレート樹脂「NOVADURAN<sup>TM</sup>（ノバデュラン<sup>TM</sup>）」の両事業を吸収分割の形で当社グループに取り込みました。

これを受け、当社グループは2023年4月3日付でポリマーズ&コンパウンズ/MMAのポリマーズ本部に「エンジニアリングプラスチックス事業部」を発足させ、XANTAR<sup>TM</sup>やNOVADURAN<sup>TM</sup>などのエンプラ事業のさらなる強化を図ります。研究開発拠点を平塚工場に立ち上げ、技術開発力の強化にも取り組みます。当社グループのグローバルネットワークやケイパビリティを積極的に活用することで、より迅速なテクニカルサービスの提供を実現し、事業拡大を加速させていきます。

経営方針「Forging the future 未来を拓く」のもと、当社グループは機能商品セグメントにおいてEV/モビリティを注力市場と位置づけ、サステナビリティにおけるポジションのさらなる拡大を目指しています。XANTAR<sup>TM</sup>、NOVADURAN<sup>TM</sup>はEV（電気自動車）のバッテリーケース・カバーや、ADAS（先進運転支援システム）向けセンサーをはじめとする電装部品に広く使用されています。植物由来のバイオエンジニアリングプラスチックス「DURABIO<sup>TM</sup>（デュラビオ<sup>TM</sup>）」も、耐衝撃性や透明性などの性能や植物由来である点が評価され、自動車の内外装部品などで採用が拡大しています。また、ポリカーボネート樹脂ケミカルリサイクルの世界初の事業化や、茨城事業所に建設中の廃プラスチック油化設備から得られるリサイクル原料のエンプラ製品への活用の検討を進めるなど、サステナビリティ関連の取り組みも推進しています。

当社グループはこれらのグローバルな事業展開を通して、これからも高付加価値な機能商品を供給するとともに、サステナブルな社会の実現に貢献していきます。

<sup>※1</sup> 三菱ケミカルグループは、三菱ケミカルグループ株式会社とそのグループ会社の総称です。

ご参考

- 2022年2月8日付「エンジニアリングプラスチックス事業強化に向けた再編に関するお知らせ」：  
[https://www.m-chemical.co.jp/news/2022/\\_icsFiles/afieldfile/2022/02/15/meprev.pdf](https://www.m-chemical.co.jp/news/2022/_icsFiles/afieldfile/2022/02/15/meprev.pdf)  
2023年4月3日以降のMEP出資比率：三菱ガス化学株式会社 75%・三菱ケミカル株式会社 25%
- 2023年3月15日付「ポリカーボネート樹脂ケミカルリサイクルの世界初の事業化に向けた検討開始について」：  
[https://www.mcgc.com/news\\_release/01527.html](https://www.mcgc.com/news_release/01527.html)

以上

お問合せ先  
三菱ケミカルグループ株式会社  
コーポレートコミュニケーション本部  
メディアリレーション部 TEL : 03-6748-7140